



越前祖神 足羽神社



第26代継体天皇



「継体天皇石像」 足羽山より三国を望み、現代でも福井の平和と発展を見守っています。

年中行事

一月	一日 歳旦祭 十五日 左義長祭
二月	三日 大寒次日曜 寒中みそぎ 十一日 節分祭 十一日 建国記念祭
三月	中旬 太子祭
四月	上旬 桜祭り(お茶会)
五月	十四日 足羽山招魂社春季例大祭 十五日 神幸祭 十五日 春季例大祭
六月	十六日 後日祭
八月	十五日 終戦記念祭
九月	三十日 大祓式(夏越の大祓)
十月	二十日 秋季例大祭
十一月	二十五日 足羽山招魂社秋季例大祭
十二月	十五日 観月祭 十五日 奉吟祭 十五日 大麻頒布始奉告祭 二十三日 天長祭 大晦日 大祓式・除夜祭

<http://www.asuwajinja.jp/>



足羽神社社務所

〒九一八・八〇〇七
福井市足羽上町一〇八
TEL: 〇七七六・三六・〇二八七
FAX: 〇七七六・三六・〇八四三

継体天皇御世系碑



飛騨高山の国学者、田中大秀(本居宣長門人)は、早くから継体天皇の御世系を研究し、これを世人に広めようと、境内に建設を計画しました。
この碑は大秀の門人の橋暉覧を中心に、五十四代宮司・善包、同門の池田武万侶、山口春村等が協力し、大秀没後の弘化四年十一月(八四七)に建立しました。

継体天皇は応神天皇五世皇孫で、近江国高嶋郷三尾野という所でお生まれになり、御名を男大迹王といわれました。3歳の時、御父が亡くなられたので、御母に従い越前に戻り高向(現・丸岡町高棕)でお育ちになりました。
その頃の越前の国は沼地同然でしたので、男大迹王は足羽山に土地を卜して御社殿を建て、大宮地之霊を祀って神前に祈願し、地の理を調べて現在の九頭竜・足羽・自野の三大川を造られ、三国に水門を開き諸水を海に流されて越前平野が出来ました。人々の住居を定め、耕種、養蚕、採石、製紙、その他諸産業興隆の道を教えられ、田畑が開け、五穀も良く実り、海川交易も栄えて、人家繁栄の土地となり、天皇は昔より越前開闢の御祖神と称え崇め尊ばれてきました。
御年五十八歳にて第二十六代天皇に御即位されました。この時越前の国を離れるに当たり、この地を慕い、また後に残す人々のことを思うあまりに「永く此の国の守神に成らん」と、自らの御生霊を此の宮に鎮め、御子・馬來田皇女を斎主として後を託されました。皇女は天皇の御霊を中央に、大宮地之霊を左右に配祀し、足羽宮と称え奉ることになさいました。

御祭神

継体天皇

「末永くこの国の守り神とならん」と、自らの生き御霊を鎮めて旅立たれて行かれました。それより継体天皇が主祭神として祀られています。

大宮地之霊

男大迹王が、越前でのお過ごしの間に越前平野の大治水事業をされた伝承が残っていますが、その時に朝廷に祀られている大宮地之霊を足羽山に勧請し、安全を祈願したのが足羽神社の起源とされています。

御由緒

福井市足羽山鎮座、式内・足羽神社は、継体天皇御自創の特徴と、御創立以来一五〇〇有余年という歴史と深い信仰を有し、越前祖神と称される神社です。

古来朝廷を初め、世々の將軍、国主等によって尊崇の祭典を執り行ってきました。中でも桓武天皇、文徳天皇、朱雀天皇におかれては神位を授けられ、宇多天皇におかれては右大弁・律令制の官名)によって、毎年十一月に十七日間の「鎮魂祭・齋行の儀」を宣下せられました。また世々に御厨地を置かれるなど、神田地や臨時祭、神職等に関して、源頼朝を初め、將軍足利家、国主朝倉家等々の古文書や国史旧記等に歴然と記されています。

しかし天正兵乱の際、社家の多くは滅び、神田は廢れ、神域もわずかに残るのみとなりますが、柴田勝家がこの国を治めるに当たり、足羽の神を深く尊信して、社殿を修理し祭供をされる事により、著しくその社格を落とすまでには至りませんでした。その後は国主松平家代々の崇敬が深く、神供物として毎年米二十俵を献じたり、創立御鎮祭の年を紀元とし、五十年毎に「勅許宣命」並びに「御宸筆」を受け式年大祭を齋行するのを定例とされました。

御神紋



足羽神社の御神紋は「三光の紋」という非常に珍しい紋章で、「日(太陽)」と「月」と「星」を組み合わせ「〇」で囲んで標されています。つまり御威光の壮大無辺を表しており、まさにご神徳を表すのに相応しい御神紋です。

タカオモミジ

この紅葉は、正面参道の石段真ん中にあり、シダレザクラとともに古くから知られた銘木です。樹齢は四〇〇年ともいわれています。そのせいでしようか、近年も雪で枝折れがあり、その寿命が危惧されています。

この他にも数種類のカエデが数十本あり、十一月中頃になると真っ赤に境内を染めてくれます。紅葉狩りに訪れる人や、七五三などのご祈祷に来られる人も、境内の錦絵をゆつくりと楽しんでいきます。



【タカオモミジ】
主幹の幹廻り 3.5m
樹高 14m
東西12m、南北14m
枝張り

御神徳

足羽神社には多くの神様がお祀りされています。左記に関する祈願には、特に尊い御神恩を戴けるとされています。

継体天皇

越前開闢之祖神
産業開発興隆、商売繁盛、工事安全、子授け、安産、子孫繁栄

大宮地之霊(坐摩神)

以下五柱神の総称。朝廷宮中の守護神。
生井神・福井神・綱長井神

阿須波神 波比岐神

井戸の神、水の神
足場の神、工事安全守神、交通・旅行守神
門の神、人の出入りを守護、災難除・厄除け

【脇殿の神】

武小廣國押楯命 宣化天皇(継体天皇の皇子)
天國排開廣庭命 欽明天皇(継体天皇の皇子)
宇多天皇
耳皇子
素盞鳴尊
大穴持像石神
事代主命
少彦名命
えびす神
大黒神
薬師神
天満宮

継体天皇の皇子
天照大神の弟(ヤマタノオロチ退治)
大国主神
えびす神
医薬の神
漁業、商売繁盛の神
福の神。農業、縁結びの神
病氣平癒の神
菅原道真公。学問の神

【愛宕神社】

足羽神社に合祀。火の神、火伏せ、鎮火。
天正四年(一五七六)北庄城主・柴田勝家が、一乗谷から愛宕大権現社を足羽山に移す。
足羽神社に合祀。

【神宝神社】

明治維新の元勳由利公正子爵が拝領した
明治天皇が御即位式に御着用の刀、束帯と御鏡を祀り、明治天皇の御聖徳を称え奉る。
足羽神社に合祀。万葉歌人・柿本人麻呂命を祀り、文字の上達、文学・学問の守神。

【入麻呂神社】

土輪神社、山方神社、御門神社、
於神社、都那高志神社

【式内社】(合祀)

シダレザクラ

【シダレザクラ】
主幹の根廻り 3.5m
樹高 12m
東西19m、南北20m
枝張り



約三六〇年間「足羽さんのしだれざくら」として市民に親しまれてきた銘木です。明治三十三年(一九〇〇)の橋南の大火や、昭和二十年の福井空襲の戦下をくぐりぬけ、更には平成十七年十二月十六日、記録的な大雪のため東側の枝二本が折れるなどの受難で一時樹勢も衰えましたが、その後は回復して毎年訪れる人々の目を楽しませてくれます。
夜にはライトアップされ、妖艶な美を浮き立たせています。